

# 平成24年度第1回生駒市子ども読書活動連絡調整会議会議録（要約）

日 時： 平成24年11月2日（金）午後2時00分から

場 所： 図書会館 実習室

【参加者】 岩崎れい、松田孝一、平井富久子、森田桂子、島谷佳子、山中和幸、  
奥本恵、安田潤子、真銅宏、伊東英治、松本陽子

【学校図書館司書】 鄭典子、高野綾子、高見嘉奈子、中澤智子、足立美佳、浜田幸子、  
大東桂子、野見香織

【事務局】 向田真理子、平澤佐千代、清水淳子、春名己容子（以上図書館）  
上田修司（以上生涯学習課）

## 1 開会

- ・ 参加者紹介、学校図書館司書紹介、事務局紹介
- ・ 準付属機関の見直しに伴う新要項の制定、会議の名称変更について説明
- ・ 座長の選出

## 2 案件

### (1) 子ども読書活動推進計画実践会議の取り組みについて

◎ 事務局からこれまでの経緯や取り組み等を説明。

- ・ 家庭、地域、学校という子どもの身近にいる大人たちが読書の重要性を再認識し、互いに連携して子どもの読書環境の整備を進めるために、平成13年12月に制定された「子どもの読書活動の推進に関する法律」を受けて、平成16年6月に「生駒市子ども読書活動推進会議」を設置し、平成17年3月に「生駒市子ども読書活動推進計画～伝えよう、ドキドキ わくわくを！」を策定。計画の趣旨に基づき、その推進活動の母体として、平成17年6月に「生駒市子ども読書活動推進計画実践会議」を設置。5カ年で行ってきたさまざまな活動をまとめて、平成22年3月に「生駒市子ども読書活動推進計画実践会議 5カ年のまとめと今後の課題」を作成。

◎ 主な活動状況等

**対象別5冊のブックリスト** 《図書館→学校・地域》

公共図書館でブックリストを作成し、学校や幼稚園を通じて配布。ブックトーク（出前授業）、ブックリスト掲載本のセット貸出、ふくちゃん本よも隊等に広く活用。

**ブックスタート** 平成20年10月1日～ 《健康課+図書館→家庭》

「こんにちはあかちゃん事業（生後4か月までの乳児がいる家庭を保健師・助産師が

訪問)」とのタイアップで、赤ちゃんに絵本を1冊プレゼント。図書館での「絵本の会」(赤ちゃんと保護者対象行事)へと繋げる。

**出前授業** 《教育総務課+図書館→学校他育児支援施設等》  
おはなし・ブックトーク・絵本の読み聞かせ等を幼稚園や小・中学校へ出前する。

**スクールボランティア/PTAの活動支援** 《学校+図書館→ボランティア》  
公共図書館の司書職員が講師として、読み聞かせ、図書の装備等の講習会に出向く。

**語り手ボランティアの養成** 《図書館→ボランティア》  
子どもに語るおはなし講座、経験者のためのおはなし勉強会、生駒おはなしの会例会等を通して、市民ボランティアを育成。「生駒おはなしの会」は、ボランティアの語り手の会で、図書館を始め、学校や幼稚園にも出向いて広くおはなし等を行っている。

**地域文庫** 《図書館+文庫》  
団体貸出、文庫フェスティバルの共催を通じて、公共図書館と連携を図っている。公共図書館より長い歴史を持つ私設図書館として、今もきめ細やかな活動を続けている。

**学校図書館司書の配置** 《教育総務課+教育指導課→学校》  
「伝え合う力育成事業」の一環として配置。

平成21年度は1人配置 小学校3校週1回

平成22年度は2人配置 小学校6校週1回

平成23年度は7人配置 小学校12校・中学校8校の全校に週1回

平成24年度は8人配置 全20校中18校週1回・大規模校2校週2回

**学校図書館司書への講習** 《教育指導課+学校+図書館→学校図書館司書》  
公共図書館の司書職員が講師となり、読み聞かせ、ブックトーク等の講習会を実施。

## (2) 学校図書館司書による実績報告と交流会 (以下、司書=学校図書館司書)

### ◎ 実績報告

- ・ 生駒中学校勤務の浜田司書から、通常の業務内容と電算化の取り組みについての報告。開館時の貸出返却業務はもちろん、電算化にあたっての装備作業などにも図書委員の協力を得た。その力無くして図書室の運営、活動は成り立たないと実感しているとの事。
- ・ 俵口小学校勤務の中澤司書から、オープン参観での保護者に対する発表、全校集会で図書委員会と共に行ったブックトークの報告。
- ・ その他の司書の実績報告として、各校図書室の展示内容の写真や「図書室だより」等の配布物を掲示。それらを参加者全員で閲覧した後交流会を行う。

### ◎ 交流会

- ・ 中学校での図書委員会との活動の様子がわかってよかった。小学校では、図書委員、ボランティアをどのように活用しているか？

→小学校では、図書委員の仕事は休み時間の貸出・返却作業。ボランティアは書架整理や本の修理、電算化の手伝いなど。
- ・ 一人で三校に勤務する中で、これだけのことをやっているのはすごい。先生、図書委員、ボランティアと一緒に活動するということを積み重ねてここまでやられてきたようになったのだろう。
- ・ 学校図書館の運営は、司書一人では難しい。(先生、図書委員、ボランティアを)コーディネートしていくのも大変だろうと思う。
- ・ 学校図書館司書が入ってから、子どもが本を借りてくるようになった。読書の秋なので、POP展等は子どもが興味をひくいい方法だと思う。司書の存在をPTAにも呼びかけてアピールしてほしい。
- ・ (学校図書室の電算化について・行政から補足) 特に中学校から要望があり、今年度全校にパソコンを配置。実際に稼働しているところから準備段階のところまで様々。
- ・ 朝読、昼読と学校図書館司書との関わり方は？

→特に関わっていない。
- ・ 朝読は人手がいないから普及したという事情もある。私立の小中学校で、朝読の時間に司書が選んだ本をブックトラックに載せて各教室に配っているところがある。すすめたい本を手渡せてよい。
- ・ (生駒小学校の事例) ボランティア団体「としょックス」が10年以上活動している。司書と共同ではないが、朝の会の時間に読み聞かせに入ったり、20分休みに低学年対象にミニおはなし会をするなどの活動をしている。
- ・ (あすか野小学校の事例) ボランティアには読み聞かせより電算化の仕事をしてもらおうと思っている。生駒おはなしの会には昼休みに月2回おはなし会をしてもらっている。図書館北分館の職員による出前おはなし会、図書館発行のブックリスト掲載本の団体貸出も活用している。俵口小学校の取り組みは良いと思うが、あすか野小学校では、司書の勤務日と委員会の開催日が異なり、日程的に難しい。司書と図書委員が、直接会えないのが残念。司書にもう少し(週2回以上)来ていただければよいが……。
- ・ (中学校) 図書室に生徒が来るのを待っているのではなく、宣伝して来てもらう時代。そのための環境づくりが必要。
- ・ (幼稚園) なかなか絵本がそろえられず冊数が少ない。人手不足で専門性もないので、きちんとした配列や整理ができていない。生駒おはなしの会に来てもらえて、

子どもたちにメディアではなく活字に出合わせることができている。

- ・ 司書の活動事例に感心した。生駒おはなしの会として、小中学校へおはなし会に出向いているが、前より図書室の雰囲気はよくなった。司書の力だと思う。

- ・ 夏休みの開室は、学校によって違うのか？

→そうです。

- ・ (保育園) 事例を聞いて学校の図書室が、司書が入ってこんなによくなったのだと思った。保育者は、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアターなどを使っておはなしの楽しさを伝えようとしている。本はたくさんあるが、整理は手付かずで、今後の課題。
- ・ この会議で前々からの念願だった学校図書館司書の全校配置が叶った。なかなか例をみないことで、生駒市はすすんでおり、子どもたちは得をしている。司書のがんばりがよくわかる。ブックトーク、オリエンテーションの工夫、読書感想画は新しい発想。司書同士の情報交換の場をぜひ持ってほしい。今後も会議に参加して発表してもらえるとありがたい。

### (3) 平成24年度事業計画について

- ◎ 2月に次回会議を予定。今回の会議内容をふまえ、平成25年度の活動内容について検討の予定。

### (4) その他

- ◎ 本日の会議の座長・岩崎教授が、8月にIFLA（国際図書館連盟）の第78回ヘルシンキ大会に出席された。そこで、フィンランドの図書館をとりまく状況についておはなしを伺った。